

十勝南モデル地域圏域検討会 交通関係ワーキングチーム

(1)概要

- ・十勝南モデル地域においては、平成29年11月に圏域検討会が発足し、平成30年3月に施策パッケージを作成。
- ・施策パッケージにおける喫緊に取り組む事項の1つとして、「**地域交通の利便性向上に関する取組**」を掲げ、ワーキングチームを適宜開催して議論。

■ワーキングチームのメンバー

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ・十勝バス株式会社 | ・広尾町 |
| ・拓殖バス株式会社 | ・幕別町 |
| ・トヨタ自動車株式会社 | ・北海道 総合政策部 |
| ・十勝地区ハイヤー協会 | ・北海道 十勝総合振興局 |
| ・帯広市 | ・国土交通省 北海道運輸局 |
| ・中札内村 | ・国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局 |
| ・更別村 | ・国土交通省 北海道開発局 |
| ・大樹町 | ・国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 |

■ワーキングチームの開催実績

H29.11.22 第1回圏域検討会

H30.5.8 全体ワーキングチーム

H30.8.8 交通関係ワーキングチーム①

H30.10.9 第2回圏域検討会

■施策パッケージを策定

H31.1.31 交通関係ワーキングチーム②

R1.12.20 交通関係ワーキングチーム③

R2.2.18 交通関係ワーキングチーム④

R3.3.17 交通関係ワーキングチーム⑤

R5.1.31 交通関係ワーキングチーム⑥



■地域交通の利便性向上に関する施策パッケージ



所得・雇用の確保

スマート農業の推進
6次産業化
ブランド化と海外展開
畑地かんがい施設等
農地の基盤整備

【農業関係ワーキングチームの取組】 農業の持続的発展

《農業労働力の確保》
就業者の確保
職場環境の向上
効率化

情報の一元的な収集及び情報発信
働きやすい職場環境づくり
就業を希望する人と生産者とのマッチング
経営の法人化・GAP取得
ICT/IoTによるスマート農業の導入のさらなる活用
放牧（畜産）の一部導入

《6次産業化の展開》「小さな6次産業化」実現の後押し

十勝製品のさらなる高付加価値化と人と技術の結集による食料生産基地の発展

生活機能・集落機能の確保

地域内交通の確保
シームレス交通戦略
自動運転サービス
実証実験
帯広尾自動車道等
基盤整備

【交通関係ワーキングチームの取組】 地域交通の利便性向上

《乗り継ぎの改善》
・幹線バスとコミュニティバス等の接続の向上
・バス、タクシー、レンタカー、自転車等様々な交通モード間の連携乗り継ぎ待ちしやすい環境づくり

《新技術》
・自動運転技術の活用

《広域連携》
・複数市町村が連携した交通網の検討

《コミュニケーション対策》
モビリティ・マネジメントの推進
地域交通に係るコンシェルジュのような人材の育成

様々な機能が集まる帯広市への迅速なアクセスの確保とそこに暮らし続けるための地域ネットワークづくり

地域の魅力向上

移住・定住促進、人材の育成
宇宙のまちづくりなど地域の特色ある取組
十勝シーニックバイウェイ、サイクルツーリズムなど広域観光

雄大な十勝を体感できる環境づくりと新たなライフスタイルによる移住・定住の促進

安全・安心な社会基盤の形成

管内防災関係機関を対象とした検討会、研修会、訓練
インフラメンテナンス
十勝バイオマス産業都市構想

激甚化する災害に備えた社会基盤の確保と連携体制づくり